

日本におけるHIPHOPカルチャーの流布
貝渕貴也(22011085tk@tama.ac.jp)

1. はじめに

現代においてヒップホップという音楽ジャンルは、世界のチャートにおいて10年前に比べて大きく売り上げを伸ばしており、2019年には、ロックのジャンルを超えて、最も売り上げが大きいジャンルの一つとなった。その一方、日本では一部のみにしか聴かれていないマイナーなものとなっており、依然J-ポップといったジャンルが日本のチャートの上位を占めている。日本のヒップホップMCであるAKLOはインタビューでこう話している。「世界的に日本ほどヒップホップが流行ってない国ってないし、それって超ダサイと思うんです(笑)。USやUKのポップ・チャートなんてヒップホップばっかじゃないですか。」(Amebreak)2016年ではテレビ番組「フリースタイルダンジョン」の影響を受け、以前に比べ人気は出ているが未だマイナーなジャンルでしかないと考えられる。

研究の目的

研究では、ヒップホップの分野の楽曲が日本でどのような形で流布し、その要因を歴史やコンセプトから分析し、明らかにすることを目的とする。

そのため、ヒップホップの分野の楽曲が日本でどのような形で流布したのか、その要因を歴史やコンセプトから分析し明らかにする

HIPHOPの持つ影響力について、歴史と、それまでの変化、黒人の文化であったHIPHOPが全米を巻き込んで一大産業となり、莫大な利益を生み出すマネーゲームとなり、多くの若者に支持されるアーティストやプロデューサーが政治的な発言や取り組みをするようになり、それが日本にも浸透してきている。これからますます影響力を持ち、HIPHOPの莫大ブームが来ると考える。

4. 研究の方法

資料調査及び分析。

参考文献

[Microsoft Word - 1K06B028.docx \(waseda.jp\)](#)

3. 仮説と予測